

黒潮町で「複合型インフラサウンド津波センサー」地元住民向け成果報告会開催 ～津波防災のための超低周波音観測の現状と課題 黒潮町・現地報告会2017～

本学システム工学群 山本 真行 教授が開発し、平成27年に黒潮町の5地点に津波防災設備として試験的に整備した、津波による大気微動を捉える「複合型インフラサウンド津波センサー」(別紙参照) 設置後1年間の成果報告会を地元住民の方々向けに開催します。

本学では、JST(科学技術振興機構)から開発費の支援を得、東日本震災前より基礎研究を実施、平成27年2月にインフラサウンドセンサー単体として、株式会社サヤと共同で製品化に成功し、黒潮町で本技術を活かした地域の防災システムへの展開を試みました。

平成28年度からは、セコム科学技術財団から研究助成を得て研究成果は徐々に広がり、本年度は高知県全域に計10台のセンサー追加設置を進めています。

この度、黒潮町の皆様への感謝の気持ちを込め、本報告会を開催します。



■日程 11月24日(金) 15:00～17:00

■会場 黒潮町保健福祉センター2階 健康研修室 高知県幡多郡黒潮町入野2017-1(別紙参照)

■内容

- 15:00 開会挨拶 山本真行(システム工学群・教授/総合研究所インフラサウンド研究室・室長)
- 15:05 来賓挨拶 議員・黒潮町役場・住民代表者(未定)
- 15:20 研究全体紹介 山本真行(同上)
「津波防災に向けて“聞こえない音”を探る～黒潮町から全国・世界へ～」
- 15:30 理論研究紹介
中島健介氏(九州大学・大学院理学研究院地球惑星科学部門・助教)
「津波から発生するインフラサウンドとその伝わり方」
- 15:40 県外研究事例紹介1
西村竜一氏(国立研究開発法人情報通信研究機構 オープンイノベーション推進本部
ソーシャルイノベーションユニット耐災害ICT研究センター 主任研究員)
「国内研究機関の耐災害への取り組み」
- 15:50 県外研究事例紹介2
村山貴彦(日本気象協会 事業本部防災ソリューション事業部 主任技師)
「日本気象協会におけるインフラサウンド観測の取り組み」(仮題)
- 16:00 質疑応答
- 16:20 議論

【本リリースに関するお問い合わせ先】

高知工科大学 企画広報部 長山・谷相(たにあい)

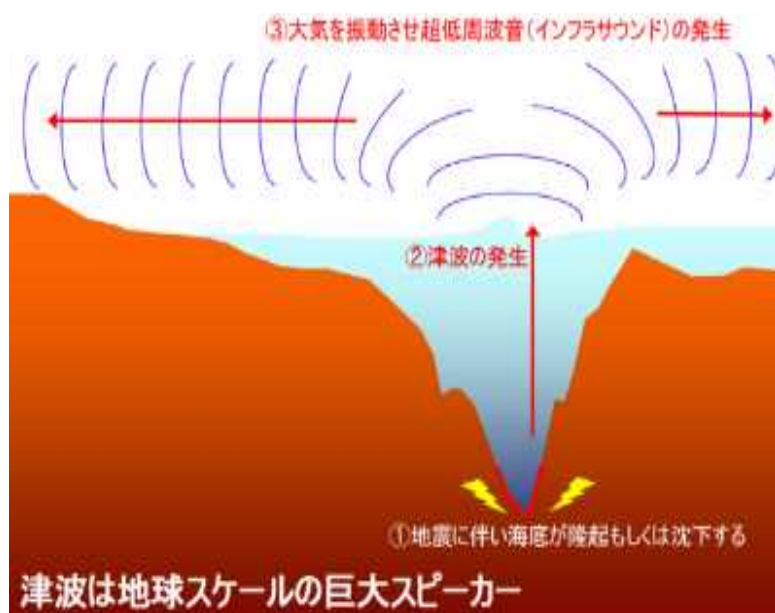
TEL.0887-53-1080 E-mail: kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp

別紙

インフラサウンドとは、巨大災害を起こす地球物理学的変動などで発生する低周波音波、微気圧波であり、1000kmを越える遠方まで伝搬する。

津波の場合、海面変動が微気圧波を生み、津波より早く音速で地上に到来する。

本センサーは陸上設置型で、洋上のGPS波浪計(津波計)や海底地震計に比べ、取り扱いが容易で、海岸線に沿った設置により、従来の観測方法を補完し津波警報の精度を上げる他、地上の1地点での地震動とそれに続くインフラサウンドを適切に検出できれば、通信網途絶の際にも、設置場所にて独立に警報することも可能となる。



複合型インフラサウンド津波センサー



報告会会場地図